

「デイトナ不動産 NEWS02」 バイクやクルマで出雲の夕日を見に行こう！ モーターホテルプロジェクト始動！

出雲大社から海沿いに約30分ほど走ったところに建設するこのモーターホテル。西の空に夕日が沈みかけたころ到着して、一風呂浴び、いよいよ空が赤く染まり始めてま



出雲に計画中のモーターホテルプロジェクトが遂にスタート。現在設計&鉄骨製作が始まっています。

日本海に面した砂浜の緩やかな傾斜の崖の上の敷地。その横には幹線道路と、言うことなしの立地です。ツーリング愛好者にとって、雨風が防げるバイク格納場所のある宿泊地がめったに存在しないことは、もはやあきらめの境地になっていたはず。このモーターホテルプロジェクトは、その悲しき状況を覆す、バイカーにとっての新しいモーターライフを提案する企画なのです。しかも浴衣で船盛りを用意されることもなく、シンプルな部屋単位の宿泊料設定。グループツーリングにも最適で、西の海に沈む夕日を見ながら、デッキスペースでの仲間とのBBQは自由の実感そのものです。次号以降、さらに詳しくこのモーターホテルプロジェクトをお伝えする予定です。



「デイトナ不動産 NEWS03」 モーターライフ最前線基地“GLB”第2号が モデルハウスを併設して浜松に計画中！

“バイクのふるさと”とも呼ばれる静岡県浜松市の郊外で、GLB第2号のプロジェクトが始まっています。こちらはモデルハウスを併設したモーターライフパラダイスとしての計画。このGLBは3世帯限定ですが、早目のお問い合わせが必要かもしれません。詳しくは次号でお知らせいたします。来年1月オープン

を目指して、現在、設計作業と鉄骨製作が進行中です。デイトナハウスのリアルな空間が常時見学できるうれしい企画。クルマやバイクが艶消し黒の鉄骨と共鳴するカッコよさを是非実際に見学してください。各種イベントも企画中。デイトナハウスが提案する新しいモーターライフの発信場所になりそうですね。



2F空間と外観が完成 AREA053の工事も いよいよ終盤！

ガレージ、リビング、ベッドからなる新機軸のガレージアパートメント『GLB』。その第1号物件で、現在苫小牧に建設中の『エリア053』も2F空間と外壁がフィニッシュ。いよいよ完成が見えてきました。

Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA(ldk), Soma YOKOI Photo/Yumi SATO(city digit)



吹き抜け空間を横切る力強い鉄骨の梁がうれしい2F居住スペース。この部屋には鉄骨の緊張感をほどよく緩ませてくれるモンステラをレイアウト。ミッドセンチュリーご用達の観葉植物です。

いよいよ足場も外れてその全貌を現したGLB。先月号で、そのハードボイルドなガレージ空間を余すところなくご紹介したデイトナハウスのガレージアパートメント『GLB』がいよいよ竣工です。足場も外されて、そのシャープな外観が姿を現しました。軽量鉄骨造の骨組みを外断熱工法で包む高性能外壁の表面には、ガンメタ色のガルバリウム。そして世田谷ベイスでも採用された曲面屋根「Rスパン」が特徴あるフォルムを形成しています。ステンシルのナンバリングが施されたシャッターは、サンダーバード2号を彷彿とさせるモノ。もちろん電動リモコンシャッターです。そんなディテールはもちろんですが、このGLBの真骨頂と言えるの

は、やはり艶消し黒のパウダーコーティングを施した鉄骨の素材感と、ガルバリウム壁面のコントラストがうれしい1Fのガレージ空間。一斉にこのシャッターが開いて、住んでいるオーナー自慢の愛機とガレージ内に収まるディスプレイが顔を覗かせてはじめて、このGLB第1号物件「エリア053」の本当の外観が完成するのです。



吹き抜け上部の縦長スリット窓は、空間に陰影のメリハリをつけてくれるエリア053自慢の一品。梁の上には乗せたり、吊るしたり、様々なアイテムをディスプレイ可能なので、空間全体を楽しんでください。



いろんな意味で従来の賃貸住宅の常識を覆すGLB。前面の舗装が完了して、その上に航空母艦の飛行甲板のような白線が施されれば、毎日の出撃の気分は最高潮です。あなたの日常生活に張りを与えてくれる、画期的な賃貸住宅なのです。



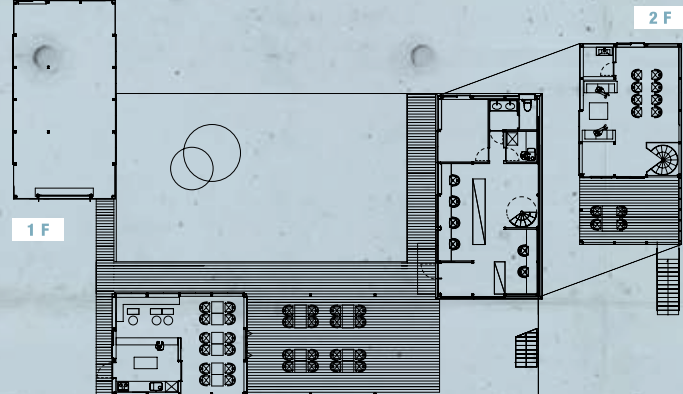
事務所棟から枯山水の砂の庭と高床式のカフェ棟を望む。シンプルの中に自然と一体化するコンセプトが埋め込まれているこの実例が持つ自信のワンカット。庭木が桜ならば、春は砂の上に花びらが。カエデの木ならば秋は砂の上に高揚した落ち葉が。いずれも捨てがたい。とはいえ両方はトゥーマッチなので、どちらか選ぶことになります。



こちらは高床式平屋のカフェのテラスから庭と鎮守の森を望むカット。鎮守の森のワイルドな自然のイメージとカフェの間に枯山水を設置することによって、より奥行きのあるイメージが増幅される効果を狙っています。これは「中間領域」という手法で、一種のフィルターの役割。このカフェでお茶を飲んでいると、ゆっくりした時間が過ごせそうですね。

平屋のカフェ、ルーフデッキの事務所、そして工房。3つの建物の配置が砂の庭を形成し、鎮守の森との適切な距離感と奥行きを形成している様がよくわかる平面図。平屋のカフェの外観デザイン、特に建物のプロポーション／縦横比率が、この施設にとって非常に重要になるのです。建物本体から大きな底のデッキスペースを形成し、さらに大きなステップで高床に登るように設定して、ステップそれぞれ建物の長手方向の一部と言う視覚効果を狙います。

FLOOR PLAN



INFORMATION LDKinc.

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社 LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

代表: 玉田敦士
WEB: www.ldk.co.jp
TEL: 03-6228-4933

DAYTONA HOUSE OFFICIAL HP
www.daytona-house.com

事務所棟には以前ご紹介した「ルーフデッキ付きの箱型バージョン」「ルーフデッキ」を採用。こちらでも外部の自然に大きく開いた現代の縁側とも言える空間。いい時間が過ごせますよ。

事務所棟には以前ご紹介した「ルーフデッキ付きの箱型バージョン」「ルーフデッキ」を採用。こちらでも外部の自然に大きく開いた現代の縁側とも言える空間。いい時間が過ごせますよ。

どう見つけるかということです。出した答えは、カフェ、事務所、工房の3つの建物で枯山水の庭をおおらかに取り囲むように配置することでした。朝の靄がかかった瀬戸内の海は、大小様々な島が点在して、さながら枯山水の庭のようです。砂の庭が静かな海を表現します。結果的に鎮守の森がそのバックに配置されることで、自然とともに生きていく喜びを静かに感じられるようなイメージにしました。

カフェの構造は、すでにおなじみの高床式「スライキー LGS」です。訪れる人の目に、カフェのテラス部分を通して、手入れされた砂の庭とそのバックの鎮守の森が入ってくる驚きと喜びを想像してみてください。自然との一体感を表現するミッドセンチュリースタイルは、ここに至る日本の豊かな風土に完全にマッチします。これぞデイトナハウスの真骨頂なのです。

今回ご紹介するのは、四国は愛媛県西条市という場所に計画中の事務所とカフェの実例です。愛媛県西条市は、四国のへそ。とも呼ばれる場所。瀬戸内の海と四国の最高峰、石鎚山の織り成す豊かな風土を持つ場所です。本州からここに来るルートも瀬戸大橋ルートと、しまなみ海道ルートがほぼ等距離に位置する、モーターライフの前線基地をしても絶好の立地となっています。

What's Daytona House?

デイトナハウスを構成するのは、LGS と呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「C チャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGS パネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGS パネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かります。パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

